

令和元年度第2回豊橋市立小・中学校通学区域審議会 会議録要旨

- 1 開催日時 令和2年1月15日（水）午前10時00分～午前11時15分
- 2 開催場所 教育委員会室（豊橋市役所東館12階）
- 3 出席者 ・委員：芳賀 亜希子、中島 健治、近藤 修司、沢田 都史子、
渡辺 田真美、本多 宏成、小村 剛 ※敬称略
・事務局：角野 洋子（教育政策課長）、木下 智弘（学校教育課長）、
浅倉 淳志（教育政策課主幹）
加藤 友治（教育政策課政策指導主事）
古関 智子（教育政策課政策指導主事）
西口 勝 （教育政策課政策グループ主査）
近藤 俊輔（教育政策課政策グループ）

4 欠席委員 1名（片山 明）

5 議 事

進行：事務局 教育政策課長

- (1) 八町小学校における特認校制度（イマージョン教育）について
- (2) 小学校のあり方に関するアンケート調査結果について

○主な意見・質問等（要旨）

- (1) 八町小学校における特認校制度（イマージョン教育）について

<近藤委員>

昨年8月に実施されたライフポートでの体験授業や9月の八町小学校での公開授業では、多くの参加者があったと聞いておりますが、そのうち最終的に正式な申込みをされなかった方からの意見などはありましたか。

<学校教育課長>

授業については、ALTを多く活用した体験授業と違い、担任とALTの2名による実際の授業形式に近い授業だったこと、オールイングリッシュではなかったことについて、イメージと違ったという意見はいただきました。

また、保護者説明会等では、通学方法に関して、毎日の送迎が負担といった意見が多くあり、それを理由に断念された方が多いようです。

<近藤委員>

ゆとりをもって送迎ができる方だけが良い教育を受けられる、といった差が生まれないようにしていただきたいと思います。

<沢田委員>

通学時に集合場所へ間に合わない時の連絡体制はどうなっていますか。

<学校教育課長>

通学班の中で連絡網を作り対応します。

<沢田委員>

通学に多くの時間がかかりますので、児童へ大きな負担がかからない配慮をお願いしたいです。

<小村委員>

直接学校まで送迎したいという意見があった場合は、どのように対応しますか。

<学校教育課長>

自治会との話し合いで車での送迎は厳禁となっており、それを予め保護者には説明していますので、そのケースは認めません。

<中島委員>

児童の中には、実際に通い始めて適性がわかる子が出てくるかと思います。やはり日本語での授業が向いているとなったときに、例えば、校長の判断で居住校区に戻すといったことを想定していますか。

<学校教育課長>

規定上は、1年単位でコース選択を見直すこととしていますが、相談には随時応じます。ただし、校長から見直しを促すようなことは想定しておらず、保護者の意に沿う形で考えています。

<中島委員>

学期単位などで臨機応変に対応できればいいですね。

<小村委員>

通学班は、学年別にバランスよく編成されるといいですね。

<学校教育課長>

今後の保護者説明会で通学方法の詳細が決まりますが、考慮する予定です。

(2) 小学校のあり方に関するアンケート調査結果について

<沢田委員>

特認校3校の利用人数が少ないようですが、潜在的な希望人数は把握していますか。また、断念した理由等はわかりますか。

<教育政策課長>

データ等はありません。今回、アンケート調査の回答の中で「通学手段が無いため断念せざるを得ない」といった自由意見を一定数いただき、初めて認識した次第です。

<小村委員>

学校としても、実際に特認校を検討し学校見学にいらっしゃる方は、通学の送迎ができることを前提に来られますので、潜在的な希望者は把握しておりません。

<沢田委員>

特認校を拡充していくことを考えるならば、やはり送迎に関する工夫が必要になると思いますので、例えばスクールバスなどを活用することになるのでしょうか。

<教育政策課長>

保護者の中でスクールバスを希望する意見は多いので、厳しい予算状況ですが、将来的には考える必要があると感じています。

<近藤委員>

アンケートに関する説明で、クラス替えが必要という意見が多いとのことでしたが、1学年1クラスの学校では当然クラス替えができません。次に統廃合という考えも出てきますが、小学校はコミュニティとして最小単位のものであると思いますのでそれも難しいです。そうなると人口を増やすための市の施策が必要となってきます。街の中心地だけ人が増えても解決しませんので、例えば、人数の少ない石巻地区で考えるならば、調整区域の問題はありますが、新しくできるスマートインターに関連した施策で人口を増やすことができるかもしれません。学校をなくすのではなく、生かしつつという方向性で市全体で何かできないかと思います。

<小村委員>

賀茂地域は、調整区域のため家が建てられません。企業はあるのですが、豊川から通う従業員がほとんどです。人を増やすのであれば、調整区域に関する施策が重要になると考えます。

また、統廃合に関しては、各地区の文化、自治会、PTA等の環境の違いがあり、校長の立場としては、心配に感じているところです。

<教育政策課長>

調整区域については、都市計画上なかなか変えられるものではないと思われます。一方で、今回の八町小学校の特認校の件で、特色ある学校づくりが人を呼び込むことにつながるツールになり得るということを実感しましたので、人を呼び込むために今ある特認校をどう充実させるかということも考えていきたいと思っています。アンケートで示された保護者の方の意見では、体験を重視した教育を多くの方が希望しておりますので、自然豊かな地域である北部の学校にとってキーワードになると思っていますが、一方で、やはり通うには遠いという問題がありますので、何か新しい工夫が必要だと考えております。

<中島委員>

特認校ができた経緯としては、不登校対策のひとつとして山村留学制度を研究した際の延長上でできたものであり、大規模校で馴染めない子のための施策だったかと記憶しておりますので、まずそのイメージから脱却してから新しく特認校を充実させることを考えなければならないですね。

<小村委員>

確かに、少人数のきめ細やかな教育を希望する一方で、大規模校で馴染めないという背景がある子は少なからずいます。

<芳賀委員>

見学にいらっしゃる方もそのような傾向にありますか。

<小村委員>

新入生で希望する多くの方は、体験重視の教育が目的ですが、途中入学を希望する子については、人間関係がうまくいかないため特認校制度の利用を検討しているといった話がよくあります。

<沢田委員>

小規模校対策に焦点を当てがちですが、特色ある学校作りについては、多くの保護者が望んでいるというアンケート調査の結果がありますので、小規模校に限らず環境を整える必要もあるかと思えます。

<渡辺委員>

私の子どもは谷川小に通っています。クラス替えができないなどのデメリットはありますが、きめ細やかな教育など小規模校としてのメリットも実感しています。人数が少なくPTA活動等が大変なので人が増えてほしいとは思いますが、調整区域の問題もあり、実際には難しいと思っています。

<芳賀委員>

アンケートの結果を見てもクラス替えができることが望ましいという意見が多いのですが、小規模校のクラス替えについての現状はどうですか。

<小村委員>

全学年1クラスのためクラス替えができませんが、一長一短あります。きめ細やかに見ることができる反面、児童、保護者ともに人間関係の問題をクラス編成によって解消できないというデメリットがありますので、2～3クラスあればと思う場面はあります。

<本多委員>

逆に4～5クラスある大規模校については、クラス替えによる環境の変化がありますが、一人一人に目が行き届きにくい、児童の活躍の場が減ってしまうというデメリットは感じています。

<近藤委員>

特認校の利用状況についてですが、利用人数を増やすためには、周知方法を工夫する必要があると思います。

<中島委員>

人口の増加や学校規模の適正化には政治の力が必要です。小規模であること自体が特色を生んでいる面がありますので、特色ある教育で人数を増やすというのは、小規模校ならではの特色をなくしてしまうことにつながるかもしれません。例えば、谷川小を新しく特認校にするといった考えは出てくるかもしれませんが、特認校としてこれ以上新たな特色を作るとなると大きな負担になると考えられます。「特認校制度」と「学校規模の適正化」は切り離して考えていくべきではないかと思います。